

「音楽史のシリーズ」をご紹介します

* 初巻の出版年が新しいものから紹介します

西洋音楽史 小林英美, 田中健次監修

学研パブリッシング 2010-

1. バロック以前の音楽 ルシアン・ジェンキンス著 松山響子訳 (W18-778)



- 第1章 中世とは？
- 第2章 教会と音楽
- 第3章 世俗音楽
- 第4章 記譜法
- 第5章 楽器
- 第6章 ルネッサンスへ
- 第7章 ルネッサンスとは何だったのか？
- 第8章 ルネッサンス期のマドリガーレ
- 第9章 ヨーロッパの分断
- 第10章 ヨーロッパ統合

2. バロックの音楽 クライヴ・アンガー=ハミルトン著 市川純訳 (W18-779)



- 第1章-序章 演奏家の参入
- 第2章 バロックの始まり
- 第3章 流行の広がり-土地によって異なる様式
- 第4章 最盛期-後期バロック

3. 古典派の音楽 スティーヴン・ジョンソン著 平倉菜摘子翻訳 (W18-785)



- 第1章 古典派の時代とは
- 第2章 自然 対 理性
- 第3章 多感様式
- 第4章 新たな目的のための新たな手段
- 第5章 オーケストラの出現
- 第6章 古きものと新しきもの—衝突か共存か？
- 第7章 オペラ・ハウスにおける革命
- 第8章 集団運動と秘密結社
- 第9章 驚愕と転覆
- 第10章 民主主義 檜舞台へ
- 第11章 最初のロマン主義者たち？
- 第12章 解放されたプロメテウス

4. ロマン派の音楽 デイヴィッド・マクラーリ著 田中由香, 島袋賢介翻訳 (W18-781)



- 第1章 ロマン派時代の夜明け
- 第2章 音楽革命
- 第3章 急進的な新しい音楽原語
- 第4章 古典的ロマン派たち
- 第5章 19世紀のオペラ
- 第6章 民主主義の音楽家たち(国民楽派)
- 第7章 オーストリアの叙事的交響曲の作曲家たち
- 第8章 ロマン派の終焉

西洋音楽の歴史 M.カッツォ、C.チマガツリ著
全3巻
シーライトパブリッシング 2009-

* 第3巻は刊行予定



1. 起源から16世紀まで 川西麻理訳
(WR02-309、WR90-459 富)

第一部 語り継ぐ伝承から書き記す伝承へ

- 第1章 古代ギリシャの音楽文明
- 第2章 キリスト教の単旋聖歌
- 第3章 9世紀の大革新
- 第4章 ネウマ譜とグイード・ダレッツォ
- 第5章 中世の典礼音楽以外の単声音楽

第二部 音楽形式の模索

- 第6章 アルス・アンティクア：ノートルダム楽派
- 第7章 フランスのアルス・ノーヴァ
- 第8章 イタリアのアルス・ノーヴァ
- 第9章 15世紀の音楽形式
- 第10章 フランドル楽派の作曲家

第三部 制作依頼主と音楽市場

- 第11章 人文主義の宮廷音楽
- 第12章 フランスとイタリアにおけるパリ風
シャンソン
- 第13章 ジュヴァンニ・ピエルルイーゲ・ダ・
パレストリーナ
- 第14章 16世紀のマドリガーレ
- 第15章 その他の場所での音楽：演劇・祝典・饗
宴

2. バロックからウィーン古典派まで
川西麻理訳 (WS02-400)

第四部 情感を揺さぶる音楽

- 第16章 モノディに関わる理論家、人文主義者、
作曲家
- 第17章 モンテヴェルディと「第2の作法」
- 第18章 17世紀のイタリアオペラ
- 第19章 ジローラモ・フレスコバルディ
- 第20章 オラトリオと雄弁術

第五部 バロック音楽の位置づけ

- 第21章 室内カンタータ
- 第22章 バロック時代のソナタ
- 第23章 17世紀のフランスオペラ
- 第24章 17世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ
- 第25章 バロック時代のコンチェルト

第六部 理論上の諸問題「偉大なる祖先の
ギャラリー」

- 第26章 バッハとヘンデル
- 第27章 17世紀から18世紀のオペラ・セリア
- 第28章 インテルメッツとオペラ・ブッフア
- 第29章 ギャラント様式から古典派の様式へ
- 第30章 ヴォルフガング・アマデウス・
モーツァルト
- 第31章 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

西洋音楽史大系 改訂版 全11巻 マイケル・レイバーン統括編集
Heritage of music
学習研究社 1998

1. 西洋音楽の誕生
(WT00-600)

1. 西洋音楽の誕生
2. 中世の音楽
3. 15世紀の音楽
4. ルネッサンス盛期の音楽
5. バッハに至るドイツ・バロック音楽
6. モンテヴェルディとオペラの誕生
7. バロック時代のイタリア教会音楽

2. バロック時代の巨匠たち
(WT00-601)

1. バロック時代の巨匠たち
2. イタリアの器楽曲
3. 中・後期バロックにおけるイタリア・オペラ
4. 17・18世紀のフランス・オペラ
5. フランスのクラヴサン音楽
6. バッハ
7. ヘンデル

3. 古典派の音楽
(WT00-602)

1. 古典派の音楽
2. 古典派のスタイルの始まり
3. バッハの息子たち
4. グルックとオペラ改革
5. モーツァルト
6. ハイドン

4. ベートーヴェンとシューベルト
(WT00-603)

1. ベートーヴェンとシューベルトの世界
2. 政治的・社会的背景
3. ベートーヴェンの生涯
4. ベートーヴェンのピアノ・ソナタ
5. ベートーヴェンの交響曲
6. ベートーヴェンの弦楽四重奏曲
7. シューベルトの生涯
8. シューベルトのリート
9. シューベルトの器楽曲

5. ロマン派の音楽
(WT00-604)

1. 音楽におけるロマン主義
2. ウェーバー
3. ベルリオーズ
4. ショパン
5. メンデルスゾーン
6. シューマン
7. リスト
8. ロマン派初期の音楽の展開

6. オペラの世紀
(WT00-605)

1. オペラ、このすばらしい芸術
2. ロッシーニ
3. ベッリーニ
4. ドニゼッティ
5. ヴェルディ
6. ワーグナー
7. プッチーニ

7. ロシアとフランスの音楽 (WT00-606)

1. ロシアとフランスの音楽
2. グリンカ
3. チャイコフスキー
4. ボロディン
5. ムソルグスキー
6. リムスキー＝コルサコフ
7. フランク
8. サン＝サーンス
9. フォーレ

8. ブラームスとフランツ・ヨーゼフの時代 (WT00-607)

1. フランツ・ヨーゼフ皇帝時代の音楽
2. ブラームス
3. ブルックナー
4. スメタナ
5. ドヴォルザーク
6. マーラー
7. リヒャルト・シュトラウス

9. 新しい世紀の音楽 (WT00-608)

1. 新しい世紀の音楽
2. ドビュッシー
3. ラヴェル
4. ラフマニノフ
5. エルガー
6. ヴォーン・ウィリアムズ
7. シベリウス
8. ヤナーチェク、コダーイ

10. 現代音楽 (WT00-609)

1. 20世紀音楽の意味と役割
2. ストラヴィンスキー
3. プロコフィエフ、ショスタコーヴィチ
4. シェーンベルク、ベルク、ウェーベルン
5. バルトーク、ヒンデミット
6. ウォルトン、テイペット、ブリテン
7. アイヴズ、コープランド
8. メシアン、ブーレーズ
9. ヴァレーズ、シュトックハウゼン
10. 新しいテクノロジーと音楽

11. 作曲家総覧 (参762 WT00-610)



ウィーンの宮廷舞踏会(1900年)。中央は皇帝フランツ・ヨーゼフ。1900年までの4年間にブラームス、ブルックナー、ヨハン・シュトラウス2世らが世を去った。その頃、グスタフ・マーラーは、歌劇場の総監督、およびウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の指揮者であった。[8. ブラームスとフランツ・ヨーゼフの時代] より

絵本で読む音楽の歴史 全8巻
ヤマハミュージックメディア 1997-1999

1. 世界の音楽と人
アンドレーア・ベルガミーニ著
関口英子訳 (WT00-626)



登場人物 - 歌の道 - 太鼓の王様 - 勇気のあかし - 海のリズム - ウルの墳墓で - 古代の指揮者たち - 聖書の音楽 - アウロスとギター - 中国の歴史と伝説 - ラーマ教の叙事詩 - 日本の雅楽 - バグダートからコルドバへ - 聖歌学校 - 聖なる踊り - ポリフォニーの音楽家たち - 皇帝の軍隊 - 大坂の人形浄瑠璃 - 公爵の宮廷で - 征服 - ジャワの影絵 - 中国式オペラ - 天才と芸術 - 反乱とサンバ - ジプシーとの旅 - アフロアメリカ音楽 - 南部 - 「智取威虎山」 - ロック - ワールドミュージック

2. バッハとバロック音楽
ステファノー・カトゥッチ著
畑瞬一郎訳 (WT00-590)



登場人物 - ドイツ - 音楽家という職業 - 宗教 - バロック時代 - オルフェウス伝説 - 音楽を求めての旅 - オルガンの仕組み - カンタータ - 対位法 - イタリア様式 - フランス様式 - バロック時代の楽器 - 「ブランデンブルク協奏曲」 - イギリスの音楽活動 - 屋外の音楽 - オペラ - 音楽出版 - オラトリオ - 受難曲 - 音楽教育 - 日常生活 - 「平均律クラヴィーア曲集」 - カフェ・コンサート - フリードリヒ2世の時代 - 「音楽の捧げ物」 - 音楽と科学 - 息子たち - 後生の評判 - バッハの作品

3. モーツァルトと古典派音楽
フランチェスコ・サルヴィ著
畑瞬一郎訳 (WT00-591)



登場人物 - 幼少時の教育 - 神童 - ザルツブルク - イタリアの音楽環境 - チェンバロからピアノへ - 音楽家と出版社 - 演奏旅行 - オペラの世界 - パリにて - ハイドン - 近代的オーケストラ - 劇場の仕組み - ウィーン - トルコ趣味 - ディヴェルティメント - 室内楽 - 音楽教師の仕事 - ソナタ形式 - 台本作家 - 「フィガロの結婚」 - 協奏曲 - プラハ - 「ドン・ジョヴァンニ」 - フリーメーソン - 「魔笛」 - 共同墓穴 - 「レクイエム」 - 後世への影響 - モーツァルトの作品

4. ベートーヴェン
アンドレーア・ベルガミーニ著
目時能理子訳 (WT00-596)



登場人物 - 1789年の思想 - ボン - 古典派音楽 - 音楽の都 - パトロン - ウィーンでのデビュー - ピアノの時代 - 音楽会 - ロマン主義 - 戦争と平和 - 作曲家の仕事場 - 音楽と自然 - 法の下で - 「フィデリオ」 - 不滅の恋人 - 交響曲 - 大衆音楽 - ゲーテとの出会い - 付随音楽 - 王政復古時代 - ワルツ - 弦楽四重奏 - ロッシーニの場合 - ベートーヴェンのピアノ - 日常生活 - 「交響曲第9番」 - 新しい世代 - 最後の作品 - ベートーヴェンの作品

5. ショパンとロマン派の音楽

カルロ・カヴァッレツェティ著
目時能理子訳 (WT00-632)



登場人物 - ドイツ・ロマン主義の思想 - メンデルスゾーン家 - ポーランド - ピアノの発展 - ヴェーバーとドイツ・オペラ - 1820年から1850年の革命運動 - アマチュア音楽家 - ロマン派のリート - フランス・ロマン主義 - パガニーニ - パリ - 「幻想交響曲」 - パリのオペラ座 - ロマン派の交響曲 - 音楽のサロン - シューマン - ピアノ・リサイタル(独奏会)の誕生 - リスト - ジョルジュ・サンド - ノクターン(夜想曲) - オーケストラの指揮 - ソナタを離れて - 音楽院 - 個人レッスン - ベートーヴェンの神話 - 音色の再発見 - 交響詩 - ショパンの評判 - ロマン派音楽

6. ロックの世紀

アンドレーア・ベルガミーニ著
関口英子訳 (WT00-633)



登場人物 - 平穏なアメリカ - 反逆者たちの登場 - 起源 - 新しい音楽の誕生 - 独立レーベル - 王者エルヴィス - シャウト - 兵役につくプレスリー - ボブ・ディランの夢 - ビートルズ(“ファブ・フォー”) - スウィング・ロンドン - “新たな”不良少年”たち - 大行進 - “サマー・オブ・ラヴ”へ - 歴史に残るアルバム - ギャラリーのロック - ウッドストック - 卑劣な戦争 - エレキギターの人 - 悪魔の音楽 - 新たなシンガーソングライターの登場 - エルヴィスから遠くはなれて - イギリスのアナーキー - ビデオの登場により姿を消すラジオスター - 技術革命 - 「明日なき暴走」 - ゲットーの鼓動 - グランジ - ロック年表 - レコード目録

7. オペラのすべて

アレッシンドロ・タヴェルナ著
高田和文訳 (WT00-627)



登場人物 - オペラの誕生 - ヴェネツィアにおける発展 - ヨーロッパ各地への波及 - オペラ歌手 - ベルカントの全盛 - オペラの種類 - オペラの構成 - グルックとオペラ改革 - モーツァルト - ロッシーニ - 観客と興行師 - ロマン派のオペラ - 台本 - グランド・オペラ - ヴェルディ - ワグナー - オーケストラ・ピット - ロシアのオペラ - プッチーニとヴェルジモ・オペラ - 20世紀初頭のパリ - 20世紀 - オペラができるまで - 舞台美術 - 舞台衣装 - 演出 - オペラの現在 - オペラ小史

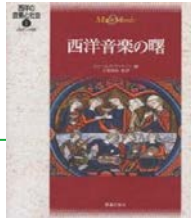
8. ジャズの歴史

ジュゼッペ・ヴィーニャ著
小松博訳 (WT00-597)



登場人物 - 奴隷制 - アメリカ黒人の三世紀 - 宗教歌 - ブルース - ニューオリンズ - ルイ・アームストロング - 楽団と楽器 - 大都会 - ハーレム - ヨーロッパへ - ジャム・セッション - ジャズの劇場進出 - ドラムス - ジャズの変遷 - ジャズ歌手 - 戦時中のジャズ - ビ・バップ - リズム・アンド・ブルース - 現代芸術として - レコード - フェスティバル - アイデンティティを求めて - 反抗のシンボル - フリー・ジャズ - エレクトリック・ジャズ - アヴァンギャルド - 世界のジャズ - 21世紀のジャズ - ジャズ年表 - レコード目録

西洋の音楽と社会 全12巻 スタンリー・セーディ総監修
Man & music
 音楽之友社 1996-1997



1. 古代・中世

西洋音楽の曙

ジェームズ・マッキノン編

上尾信也監修 (WR02-671)

- 第1章 古代・中世の西洋文明
- 第2章 前古典期ギリシアにおける「芸術」としての公開の音楽
- 第3章 キリスト教古代
- 第4章 グレゴリオ聖歌の誕生—カロリング時代
- 第5章 単旋律聖歌の変貌—変革と刷新の歴史
- 第6章 多声音楽の誕生と発展: 修道院、大聖堂、大学
- 第7章 中世イングランド、950-1450年
- 第8章 フランスの宮廷と都市、1100-1300年
- 第9章 アルス・アンティクア/アルス・ノヴァ/アルス・スブティリオル
- 第10章 イタリア・トレチェント
- 第11章 中世の終り

2. ルネサンス

花開く宮廷音楽

イアン・フェンロン編 今谷和徳監訳

(WR02-842, WR90-028 富)

序文

- 第1章 音楽と社会
- 第2章 ローマ: コントラストに満ちた都市
- 第3章 ヴェネツィア: 世界の劇場
- 第4章 北イタリアの宮廷
- 第5章 アラゴン朝支配下のナポリ
- 第6章 フランソワ1世治下のパリとフランス宮廷
- 第7章 リヨン: 商業と文化の中心都市
- 第8章 1477-1530年のフランドルとオーストリアにおけるハプスブルク家の宮廷
- 第9章 オランダウス・ラッススの時代のミュンヘン
- 第10章 ルターの宗教改革
- 第11章 16世紀のニュルンベルク
- 第12章 エリザベス朝のロンドン
- 第13章 フェルナンドとイサベルのスペイン宮廷
- 第14章 16世紀のアントウェルペン



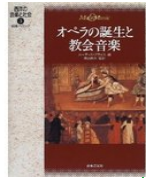
水力オルガンとコルヌ[ホルン]、おそらくは円形劇場での情景。ローマ時代のモザイク壁画の部分(紀元後230-40)、トリーア近郊ネニヒ
 [1. 古代・中世 西洋音楽の曙]より

3. 初期バロック

オペラの誕生と教会音楽

カーティス・プライス編 美山良夫監訳
(WR02-771,WR90-029 富)

- 第1章 音楽、生活、社会
- 第2章 北イタリアの宮廷
- 第3章 ローマ:教会音楽と世俗音楽
- 第4章 ヴェネツィア、1580-1680年
- 第5章 ボローニャ、1580-1680年
- 第6章 フィレンツェ:音楽付きの見世物とドラマ、1570-1650年
- 第7章 ヴィーン、1580-1705年
- 第8章 ハインリヒ・シュッツ時代のドレスデン
- 第9章 プロテスタントの北ドイツ
- 第10章 北海沿岸低地地方の国々
- 第11章 パリ、1600-61年
- 第12章 パリ、1661-87年:リュリの時代
- 第13章 ロンドン、1603-49年
- 第14章 ロンドン:共和国時代と王政復古
- 第15章 スペイン
- 第16章 メキシコ



4. 後期バロック 1

爛熟した貴族社会とオペラ

ジョージ・J.ビューロー編 関根敏子監訳
(WR02-618,WR90-030 富)

- 第1章 後期バロック時代における音楽と社会
- 第2章 ローマ:後援の力
- 第3章 政治的斜陽時代のヴェネツィア
- 第4章 ナポリ:エンタテインメントの都市
- 第5章 パリとヴェルサイユ
- 第6章 オランダ共和国
- 第7章 イベリア半島

5. 後期バロック 2

ドイツ音楽の興隆

ジョージ・J.ビューロー編 関根敏子監訳
(WR02-649,WR91-824 富)

- 第1章 ハンブルクとリュベック
- 第2章 絶対主義時代のドレスデン
- 第3章 ブランデンブルク=プロイセンと中部ドイツの宮廷
- 第4章 ライプツィヒ:世界人の貿易センター
- 第5章 バイエルの宮廷と修道院
- 第6章 ヨーゼフ1世およびカルル6世治下のヴィーン
- 第7章 ロンドン:商業的富裕と文化の伸張
- 第8章 ワルシャワ、モスクワ、サンクト・ペテルブルク



6. 古典派

啓蒙時代の都市と音楽

ニール・ザスロー編 樋口隆一監訳
(WR02-635,WR90-031 富)

- 第1章 古典派の時代の音楽と社会
- 第2章 イタリア:オペラの2つの中心地
- 第3章 パリ:アンシャン・レジームの終焉
- 第4章 マリーア・テレージア時代のヴィーン
- 第5章 ヨーゼフ2世とレーオポルト2世時代のヴィーン
- 第6章 教会統治下のザルツブルク
- 第7章 ボヘミアの地
- 第8章 マンハイム宮廷
- 第9章 北ドイツの宮廷と都市
- 第10章 エステルハーギー宮廷におけるハイドン
- 第11章 ロンドン:たぐいなき豊饒の都市
- 第12章 グスターヴ時代のストックホルム
- 第13章 啓蒙運動さなかのスペイン
- 第14章 フィラデルフィア:新世界の一都市



7. 初期ロマン派

ロマン主義と革命の時代

アレグザンダー・リンガー編 西原稔監訳

(WR02-796, WR90-032 富)

序文

第1章 間革命期における都市の音楽生活の興隆、
1789-1848

第2章 パリ、知的な動乱の中心

第3章 ヴィーン:保守主義の砦

第4章 ベルリン「大気に満ちる音楽」

第5章 ドレスデンとライプツィヒ:ブルジョワ階級の
2都市

第6章 イタリア:オペラの中心地

第7章 ロンドン:音楽の専門化

第8章 モスクワとサンクト・ペテルブルク

第9章 アメリカ合衆国

第10章 ラテン・アメリカ:独立とナショナリズム



8. 後期ロマン派 1

市民音楽の抬頭

ジム・サムソン編 三宅幸夫監訳

(WR02-611, WR90-033 富)

第1章 音楽と社会

第2章 ドイツ:「特殊な道程」

第3章 ヴィーン:絶対主義とノスタルジア

第4章 パリ:オペラの君臨

第5章 イタリア:伝統の衰退

第6章 スペイン:動乱の国家

第7章 ロシア:東西の出会い



9. 後期ロマン派 2

世紀末とナショナリズム

ジム・サムソン編 三宅幸夫監訳

(WS01-408, WR90-025 富)

第1章 中央ヨーロッパ東部:民族性獲得への苦闘

第2章 スカンディナヴィア:多様性の中の統一

第3章 ヴィクトリア朝イギリス:拡張の時代

第4章 アメリカ合衆国:古典音楽、産業音楽、隠れた
音楽

第5章 ラテン・アメリカ:影響と反発

第6章 ドイツ:逆流と矛盾

第7章 世紀末ヴィーン:政治とモダニズム

第8章 パリ:対立する進歩の概念



10. 現代 1

音楽の新しい地平

ロバート・P.モーガン編

長木誠司監訳

(WR02-672, WR90-026 富)

第1章 近代

第2章 パリ:1918-45年

第3章 帝国崩壊後のヴィーン

第4章 ドイツ:1918-45年

第5章 両大戦間のイタリア

第6章 イギリス:1918-45年

第7章 西ヨーロッパ:1945-70年

第8章 東ヨーロッパ:1918-45年

11. 現代 2

世界音楽の時代

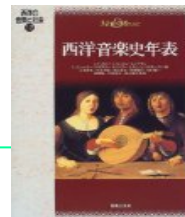
ロバート・P.モーガン編 長木誠司監訳
(WR02-843,WR91-825 富)



- 第1章 ソヴィエト連邦:1918-45年
- 第2章 北ヨーロッパの国々:1918-45年
- 第3章 合衆国:1918-45年
- 第4章 イスパニア世界:1918-45年
- 第5章 ロシアと東ヨーロッパ:1945-70年
- 第6章 両アメリカ大陸:1945-70年
- 第7章 現在の音楽シーン
- 第8章 ワールド・ミュージックの文脈における西洋音楽

12. 西洋音楽史年表

J.マッキノン他編 上尾信也他監訳
(WR02-860,WR90-027 富)



- *古代・中世: 古代ギリシアから15世紀まで
- *ルネサンス: 1470年代から16世紀まで
- *初期バロック: 16世紀後半から1660年代まで
- *後期バロック: 1680年代から1740年まで
- *古典派: 1740年代から18世紀末まで
- *初期ロマン派: 1789年と1848年の革命の間
- *後期ロマン派: 19世紀中頃から第一次世界大戦まで
- *現代: 第一次世界大戦から現代

Neues Handbuch der Musikwissenschaft

13vols. hrsg. von Carl Dahlhaus
Laaber : Laaber-Verl. 1980-1992.

Bd.1. Die Musik des Altertums
Albrecht Riethmüller; Frieder Zaminer(Hrsg.)
(T01-289)

- Kapitel I : Die Musik der Keilschriftkulturen
- Kapitel II : Altägyptische Musik
- Kapitel III : Die Musik im alten Israel
- Kapitel IV : Musik im archaischen und klassischen Griechenland
- Kapitel V : Musik zwischen Hellenismus und Spätantike

Bd.2. Die Musik des Mittelalters
Hartmut Moller ; Rudolf Stephan(Hrsg.)
(T01-290)

- Kapitel I : Die Grundlegung der europäischen Musikkultur (bis ca. 1100)
- Kapitel II : Die Musik des 12. und 13. Jahrhunderts
- Kapitel III : Die Musik des 14. Jahrhunderts



Bd.3. Die Musik des 15. und 16. Jahrhunderts
Ludwig Finscher(Hg.)
(Band.1 : T01-291, Band.2 : T01-292)

- [Band.1]
- Kapitel I : Musikleben
- Kapitel II : Theorie und Praxis
- Kapitel III : Die Messe als musikalisches Kunstwerk
- [Band.2]
- Kapitel IV : »Cantiones quae vulgo motectae vocantur«. Arten der Motette im 15. und 16. Jahrhundert
- Kapitel V : Liturgische Gebrauchsmusik
- Kapitel VI : Volkssprachige Gattungen und Instrumentalmusik

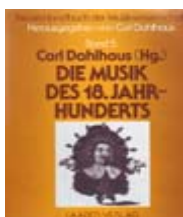
Bd.4. Die Musik des 17. Jahrhunderts
Werner Braun(Hrsg.)
(T00-617)

- Kapitel I : Musikleben
- Kapitel II : Oper
- Kapitel III : Weltliche Vokalmusik
- Kapitel IV : Geistliche / kirchliche Vokalmusik
- Kapitel V : Instrumentalmusik
- Kapitel VI : Zeitraum und Zeiteinheiten



Bd.5. Die Musik des 18. Jahrhunderts
Carl Dahlhaus(Hg.)
(T00-858)

- Kapitel I : 1720-1740
- Kapitel II : 1740-1763
- Kapitel III : 1763-1789
- Kapitel IV : 1789-1814



Bd.6. Die Musik des 19. Jahrhunderts
Carl Dahlhaus
(T00-579)

- Kapitel I : 1814-1830
 - Kapitel II : 1830-1848
 - Kapitel III : 1848-1870
 - Kapitel IV : 1870-1889
 - Kapitel V : 1889-1914
- Ende einer Epoche

Bd.7. Die Musik des 20. Jahrhunderts
Hermann Danuser
(T00-827)

Kapitel I : 1907-1920
Kapitel II : 1920-1932
Kapitel III : 1932-1950
Kapitel IV : 1950-1970



Bd.8. Ausereuropäische Musik Teil 1
Hans Oesch
(T00-830)

Kapitel I : Der chinesische Kulturbereich
Kapitel II : Der indische Kulturbereich

Bd.9. Ausereuropäische Musik Teil 2
Hans Oesch
(T00-972)

Kapitel III : Der indonesische Kulturbereich
Kapitel IV : Der arabisch-persische
Kulturbereich
Kapitel V : Der altamerikanische
Kulturbereich
Kapitel VI : Schriftlose Kulturen
Kapitel VII : Materialien



Bd.10. Systematische Musikwissenschaft
Carl Dahlhaus, Helga de la Motte-
Haber (Hg.)
(T00-768)

Kapitel I : Umfang, Methode und Ziel der
Systematischen Musikwissenschaft
Kapitel II : Musikwissenschaft und Systematische
Musikwissenschaft
Kapitel III : Begründungen musiktheoretischer
Systeme
Kapitel IV : Ästhetik und Musikästhetik
Kapitel V : Musiksoziologische Reflexionen
Kapitel VI : Musikalische Hermeneutik und
empirische Forschung
Kapitel VII : Sozialpsychologische Dimensionen
des musikalischen Geschmacks
Kapitel VIII: Begabung-Lernen-
Entwicklung
Kapitel IX : Wissenschaft und Praxis



Bd.11. Musikalische Interpretation
Hermann Danuser(Hg.)
(T01-293)

Kapitel I : Die Musik des Mittelalters
Kapitel II : Die Musik der Renaissance
Kapitel III : Die Musik der Generalbasszeit
Kapitel IV : Die Musik von der Wiener Klassik
bis zur Gegenwart



Bd.12. Volks- und Populärmusik in Europa
Doris Stockmann(Hg.)
(T01-294)

Kapitel I : Wissenschaftsgeschichte und
Forschungsmethoden
Kapitel II : Volksmusik in Arbeits- und
Lebenszusammenhang
Kapitel III : Gesangsformen und vokale Gattungen
Kapitel IV : Instrumentarium der Volksmusik
Kapitel V : Regionale Instrumentalmusikpraktiken
Kapitel VI : Volks- und Populärmusik im
Geschichtsprozess
Kapitel VII : Jazz, Rock und Popmusik



Bd.13. Register
(T01-414)

人間と音楽の歴史 全26巻 ハイน์リヒ・ベッセラー, マックス・シュナイダー監
 修 ヴェルナー・バツハマン編集
Musikgeschichte in Bildern
 音楽之友社 1972-

第Iシリーズ: 民族音楽

* 5、6、7巻は未出版

1. オセアニア
 ポール・コラール著
 (U04-004, WT00-255, WT90-125 富)

図版と解説
 儀式, 舞踊, 歌
 体鳴楽器
 膜鳴楽器
 弦鳴楽器
 気鳴楽器

2. アメリカ エスキモーとインディアン
 ポール・コラール著
 (U04-179, WT00-256, WT90-070 富)

3. 東南アジア
 ポール・コラール著
 (U04-356, WT00-257, WT90-071 富)

図版と解説
 ヴェトナム
 カンボジア(カンプーチア)
 タイ
 ラオス
 ビルマ
 アンダマン諸島
 マレーシア
 スマトラ島
 ニアス島
 ジャワ島
 バリ島
 フロレス島
 ティモール島
 アロル島
 カリマンタン(ボルネオ)島
 スラウェシ(セレベス)島
 モルッカ諸島
 フィリピン

4. 南アジア: インドの音楽とその伝統
 アラン・ダニエルー著
 (U04-029, WT00-258, WT90-126 富)

図版と解説
 インドの芸術音楽の伝統
 歌手、器楽の巨匠、重要な古典楽器
 アンサンブル
 音楽授業
 宗教音楽
 古典舞踊

インドの民俗音楽の伝統
 パキスタン(芸術音楽を含む)
 ネパールとインドのヒマラヤ地域
 北インドと中部インド
 南インド
 スリランカ

8. 北アフリカ

ポール・コラル、ユルゲン・エルスナー
著 (U04-030, WT00-296 WT90-127 富)

序論

民族構成と社会構造
ヨーロッパ音楽
芸術技巧的伝統
宗教儀式の音楽
都市の大衆音楽
民俗音楽
原住民の音楽
楽器類
出版にあたって

図版と解説

エジプト - リビア - チュニジア - アルジェリ
ア - モロッコ - 西サハラ - モーリタニア

10. 東アフリカ

ゲルハルト・クービック著
(U04-264, WT00-259 WT90-128 富)

序論

はじめに
エチオピアのアムハラ音楽の歴史
ブガンダの宮廷音楽と東アフリカ地域に
おけるその位置
沿岸スワヒリ族の古代楽器
東アフリカにおける楽器伝播の歴史と現状
タンザニア音楽の歴史と分布地域
ニャサ・ルヴマ文化地域の音楽史
音楽およびダンス教育、伝統的教育機関、
仮面秘密結社
東アフリカにおける19世紀のヨーロッパの軍楽
の影響
1945年以降の東アフリカにおける新しい音楽
形式の誕生

図版と解説

アムハラ音楽
ブガンダとその隣接地域
沿岸スワヒリ族の古代音楽
楽器の伝播
タンザニア音楽の分布地域
ニャサ・ルヴマ文化地域の音楽史
音楽およびダンス教育
ヨーロッパの軍楽の影響

9. 中央アフリカ

ヨス・ガンゼマンズ、バーバラ・シュミットレンガー著
(WT00-382, WT90-124 富)

序論

図版と解説

音楽史(9-19世紀)
先史時代の遺物
16-19世紀の図像記録

音楽と社会

宮廷音楽
人生と季節の節目における音楽
音楽と労働
音楽と祭礼
音楽と舞踊

音楽演奏の実際

口頭伝承と伝統的弦鳴楽器
音高を調律した体鳴楽器の演奏
トランペットとフルートの演奏
太鼓ことば
合奏

非バントゥー系諸部族の音楽文化

ピグミー族の音楽

現在の状況と未来の展望

新しい傾向
中央アフリカ諸部族一覧地図

11. 西アフリカ

ゲルハルト・クービック著
(WT00-383, WT90-007 富)

序論

概説
西アフリカの部族および言語の分類
資料事情
西アフリカのゾーン区分

図版と解説

第1ゾーン: 中部カルメーン
第2ゾーン: ビアフラ文化圏
第3ゾーン: アダマワと中部スーダン
第4ゾーン: ベニン/ヨルバ
第5ゾーン: フォン族のダホメイ王国
第6ゾーン: エウエ族とアカン族
第7ゾーン: ヴォルタ文化圏
第8ゾーン: リベリアとシエラレオーネ

1. エジプト

ハンス・ヒックマン著

(U04-163, WT00-260, WT90-001 富)

序論

図版と解説

概論: 古代エジプト音楽と楽器の歴史的展開

古代エジプトの音楽生活

宮廷と儀式の音楽

踊と劇

家庭音楽・娯楽音楽

軍隊の音楽

民衆の音楽・労働の音楽

音楽の実践

歌

カイロノミーと多声性

音組織

楽器

体鳴楽器

膜鳴楽器

気鳴楽器

弦鳴楽器

有名な歌手と楽器奏者

むすび

2. メソポタミア

スービ・アンワル・ラシード著

(U04-005, WT00-261, WT90-002 富)

図版と解説

初期王朝から新シュメール時代まで

古代バビロニア時代

中期バビロニア時代

新アッシリアと新バビロニア時代

セレウコス朝時代

パルティア時代

4. ギリシア

マックス・ヴェーグナー著

(U04-006, WT00-262, WT90-003 富)

図版と解説

ホメロスの時代の音楽

フォルミンクス - アウロス

祭祀音楽

キタラ - アウロス - テュンパノン

音楽を演奏する神々と英雄たち

弦楽器 - 打楽器 - 管楽器

劇場音楽

アウロス - 弦楽器

アゴン

弦楽器 - アウロス

労働の時の音楽

アウロス

軍楽

管楽器

体育の時の音楽

アウロス

音楽による教育

竪琴

酒宴とコモスの時の音楽

アウロス - クロタラ - バルビトン

女性の生活での音楽

ハーブ - アウロス - リュート -

アプリアのシストルム

芸術の時代の音楽

音楽鑑賞

記譜

5.エトルリアとローマ

ギュンター・フライシュハウアー著

(U04-007, WT00-263, WT90-004 富)

序論

図版と解説

エトルリア人の音楽生活と楽器

最古の楽器

祭儀音楽

競技における音楽

舞踏のための音楽

労働のための音楽

食卓音楽と娯楽音楽

行列および行進における音楽

吹奏楽器の愛好

ローマ人の音楽生活と楽器

祭儀音楽

軍楽

労働のための音楽

ヘレニズム・ローマ神秘祭儀の音楽と楽器

劇場音楽と演奏会の音楽

舞踏音楽と娯楽音楽

後期ローマ時代の音楽観

喝采

7.古代アメリカ 前コロンブス時代のインディアン

音楽 サムエル・マルティ著

(WT00-384, WT90-005 富)

序論

アステカ族の歌

音楽と宗教

音楽と音楽性

音楽生活と音楽演奏

文献

考古学的資料

年代学と文化

問題提起

図版と解説

北アメリカ

メキシコ盆地、先古典期

メキシコ盆地、テオティワカン

メキシコ盆地、トルテカとアステカ

メキシコ北西部

メキシコ湾岸

サボテカ族とミシュテカ族

マヤ族

中央アメリカ

北アンデス地域

中央アンデス地域

8. 古代インド

ウォルター・カウフマン著

(U04-389,WT00-264,WT90-006 富)

序論

古代インドの地理と時代的定義

古代インドの年代推定と年表

先史時代とインダス文明

ヴェーダ時代のインド

ヴェーダ時代以降のインド

インド建築と造形美術

聖俗の概念

音楽に携わる者の社会的地位

音楽生活

音楽実践

音楽と舞踊

楽器

図版について

図版解説

インダス文明

バールフット

ボードガヤー

バージャー、グワリオール、ピタルコーラー

サーンチー

ウダヤギリ、マトゥラー、カウシャーンビー、

ベーグラーム

アマラーヴァティー

ナーガールジュナコンダ

マトゥラー

ガンダーラ

グプタ朝以降

地図(古代インドの芸術と文化の中心地)

9. 中央アジア F.M.カロマトフ他著

(WT00-385,WT90-008 富)

序論

図版と解説

中石器時代から鉄器時代前期までの(旧ソ連領内)中央アジア

シベリア

東パルティア

ホラズム

バクトリア/トハリスタン

ソグディアナ

(旧ソ連領内)中央アジアのイラン語圏

ウストルシャナ

シャーシ

東トルキスタン

アラブ人に征服された時代の(現ソ連領内)

中央アジア

音楽考古学の資料が発見された遺跡の一覧地図

2. イスラム

ヘンリー・ジョージ・ファーマー著
(U04-140,WT00-265,WT90-072 富)

序論
図版と解説

3. 音楽教育 中世の音楽理論と教授法

ヨセフ・スミツ・ヴァン・ワースベルヘ著
(U04-363,WT00-266,WT90-073 富)

序論

中世の文化、教養および教育
学校のいろいろなタイプ
教授体系と教育目的
方法論、教授法、授業形態
学校生活
音楽的な教授内容、ギリシアの音楽理論
中世初期における音高とその純正さ
ハルモニアの概念
学問(自由学芸)
あとがき

図版と解説

音楽理論と音楽実践の統一体
教会音楽と世俗音楽の二元性
権威と「封建的思想」
音楽の識者たちへの尊敬
「音楽の発明者」としてのピュタゴラス
ピュタゴラスの数比理論
人物像における数比
歌唱教育
読誦
書き方の練習
メリスマ型聖歌の記憶
音程理論

種の理論

中世の音楽教授におけるモノコルド
モノコルド理論
旋法の識別
旋法理論
音高意識の訓練
初期のグイードの記譜法
グイードの音感訓練法
グイードの即興理論
ムタツィオ理論の始まり
教授手段としての手
グイードの手
自由学芸科目のひとつとしての音楽
音楽の分類
天体のハルモニア
ハルモニア・ムンディ
楽器の分類
モノコルドからクラヴィーアへ
多声音楽の理論
定量音楽
教授法
視覚に訴える教授手段
音楽理論書のいろいろな装飾
教室
レーゼドラマと学校劇
教師と生徒の関係

4. 単音楽の記譜法

ブルーノ・シュテープリン著

(U04-355,WT00-267,WT90-074 富)

序論

序

記録以前の時代

ラテン語典礼の成立と発展

第1期(800ごろから1050まで)

記譜法

音楽

第2期(1050から1200ごろまで)

記譜法

音楽

第3期(1200ごろ以降)

記譜法

音楽

総括と補遺

図版と解説

原段階:古フランク式ネウマ

初期段階:ブルターニュ式ネウマ

フランスのネウマ、第1期

島部式ネウマ、第1期

フランス式ネウマと島部式ネウマ、第2期

上部イタリア式ネウマ、第1期、第2期

ミラノのネウマ、第2期

中部イタリアのネウマ、第1期、第2期

南イタリアのネウマ、第1期、第2期

アクイタニア式ネウマ、第1期、第2期

フランス・ネウマから角型記譜法への移行

アクイタニア式ネウマから角型記譜法への移行

角型記譜法

後期ミラノ型ネウマ

定量の角型記譜法

ドイツ式ネウマ、第1期、第2期

メッツ式ネウマ、第1期、第2期

ドイツ、メッツ、ボヘミアの記譜法、第3期

定量のドイツとメッツの記譜法

マイスタージンガーの記譜法

北スペイン式ネウマ、第1期

トレドとカタロニアのスペイン式ネウマ

文字記譜法

ダジャ記譜法

音程記譜法

譜線間歌詞記譜法

5. 多声音楽の記譜法

ハインリヒ・ベッセラー, ペーター・ギュルケ著

(U04-008, WT00-268, WT90-275 富)

序論

図版と解説

初期オルガスム

ノートルダム楽派

イギリス初期の多声性

アルス・アンティクア

アルス・ノヴァとアルス・スブティーリオル

トレチェントの音楽

1400年以降の様式の変遷

デュファイの時代

舞曲, コントラファクトゥム, クオドリベット

ドイツの歌曲と器楽曲

ネーデルラントの声楽ポリフォニー

16世紀のタブラチュア

人文主義と宗教改革

自筆譜と総譜

ヌオーヴェ・ムジケ(新音楽)

8. 15世紀の音楽生活

エドモンド・A.ボールズ著

(U04-164,WT00-269,WT00-788)

序論

図版と解説

戴冠式と司教叙階式

結婚式

歓迎と祝祭行列

祝宴

宮廷の舞踏会

トーナメント

軍隊の音楽

狩猟

社交の場での音楽

教会音楽

宗教音楽

演劇

都市の音楽

市民階級のダンス

辻音楽師と乞食

農民の音楽

9. 16世紀の音楽生活
ヴァルター・ザルメン著
(U04-009,WT00-270,WT90-076 富)

序論

社会的階層と音楽
音楽活動に関わる人々の地位と機能
音楽演奏の場所と機能
資料と解説

コレギウム・ムシクム
マイスタージンガー
楽器製作者
楽器商
楽譜の出版
音楽の授業
生徒の歌と演劇
学生生活における音楽
リュートの演奏
音楽の治療的効果
鍵盤楽器を伴う室内楽
演奏用のテーブル
宮廷の室内楽
室内楽とターフェルムジーク
祝典におけるターフェルムジーク
宮廷舞踏会
狩猟
狩猟における社会的な娯楽
トーナメントと決闘
騎馬の戦場のラッパ
戴冠式の表敬
領主のパレード
凱旋門
戴冠式と顕彰
祝典ミサ
多声合唱によるミサ
平日の礼拝
単旋聖歌(カントウス・プラーヌス)
プロテスタントのカントライと会衆
オルガニスト
ボヘミア修道士の歌唱
ギリシア正教とユダヤ教の典礼
葬式
行列
イタリアのコメディア・デラルテ
その他の国々の役者
オペラ、バレエ、仮面劇

図版と解説

子供の遊び
牧童の音楽
農作業における音響器具
村のプファイファーと楽士
労働のための歌と奏楽
農村の曲芸ダンス
踊る農民と牧童
農村のペアダンス
村祭
都市の民衆祭
射撃祭
刀剣ダンス
ツンプト・ダンスとモレスカ
謝肉祭行列
娼家の音楽
乞食楽士
熊使いと鉱山歌手
市場の歌手とビラ歌
公共の触れ役
塔のラッパ吹き
法律と音楽
歩兵隊の戦場音楽
ガレー船の中の戦争音楽
旅の道連れとしての楽士
浴場風景
食卓音楽
セレナード
市民階級の結婚式
ステップ・ダンス
パヴァーヌ
ガイヤルド
戸外での舞踏と歌
多声の社交的歌唱
3人で奏する家庭音楽
船上の音楽
音楽愛好家のハープ演奏
私的な奏楽
音楽アカデミー

1. オペラ：1600年から1900年までの舞台と演出

ヘルムート・クリスティアン・ヴォルフ著

(U04-010, WT00-271, WT00-779)

序論

図版と解説

17世紀のオペラ

インテルメッツと初期オペラ
フィレンツェとフェラーラにおける初期のイタリア・オペラ
フィレンツェのオペラ
ヴェネツィアのオペラ
ブリュッセルのオペラ
グロテスクな衣装と舞台装置
パリのイタリア・オペラ
舞台の機械仕掛
ヴィーンのオペラ
ミュンヘンのオペラ
パルマのオペラ
パリのオペラ
パリ・オペラの衣装
パリのオペラ・バレエ
音楽悲劇
ニュルンベルクのドイツ・オペラ
ハンブルクのドイツ・オペラ
ドレスデンのオペラ
二点透視法

18世紀のオペラ

ヴィーンの野外上演
庭園劇場
バロック・オペラの舞台装置
バロック・オペラの舞台の色彩
18世紀のイタリア・オペラ
18世紀のイタリア・オペラ--異国趣味
18世紀ドレスデンのイタリア・オペラ
ルッカのオペラ劇場
18世紀の観客とオーケストラ
オペラ劇場の平面図
ピエトロ・メタスタージオ
ラモーの音楽悲劇
18世紀のオーケストラと舞台

グルックのオペラ

18世紀イギリスのオペラ
縁日の芝居小屋、オペラ・コミックの誕生
ファヴァールのオペラ・コミック
モンシニとグレットリーのオペラ・コミック
18世紀ドイツのオペラ
スウェーデンとドイツのオペラ
田舎の場面
ヴィーンのジグシュピール
モーツァルトにおける劇的な表現様式

19世紀のオペラ

擬古典的舞台のモーツァルト
シンケルに見るロマン派への転機
初期ロマン派オペラ
ロッシーニのオペラ・セリア
ヴィンチェンツォ・ベリニーニ
擬古典主義のイタリア人舞台装置家
フランス革命期のオペラ
ガスパロ・スポンティニー
ドイツ・ロマン派
ロマン派オペラのオリエント趣味
ロマン派オペラの機械効果
パリのグランド・オペラ
フランスのロマン派、マイヤベーア
マイヤベーアのオペラ・コミック
歴史物のグランド・オペラ、アレヴィ
19世紀のオペラ・ブッフアとオペレッタ
ジュゼッペ・ヴェルディ
リヒャルト・ヴァーグナー
19世紀のオペラ・コミック
19世紀のロシア・オペラ
19世紀のチェコ・オペラ
ジャコモ・プッチーニ
リヒャルト・シュトラウス

2. コンサート:17世紀から19世紀までの公開演奏会 ハインリヒ・W.シュヴァープ著 (U04-141,WT00-272,WT90-077 富)

序論

コンサートの始まり
コンサートの組織形態の発展
「コンサート」の概念について
この巻の問題点に関して
コンサートの会場
コンサートを担う人および組織する人たち
聴衆
図版の詳細について
謝辞
第2版によせて

社交の場としての北ドイツ音楽祭
歌唱祭とコンサート
パリの合唱コンサート
ベルリオーズ指揮の大コンサート
コーラスおよびオーケストラの配置
オーケストラの指揮
ロンドンの〈ジュリアン・コンサート〉
19世紀中頃のコンサートホール建設
コンサートに登場した神童たち

図版と解説

17,18世紀の公開コンサートに原形と特徴

教会での音楽演奏
宮廷での音楽演奏
オペラの舞台上のコンサート
宮廷および家庭でのコンサート
都市での音楽演奏
ある音楽室の設計図
オックスフォードのホリーウェル音楽堂
旅回りのヴィルトゥオーソ
アンサンブルの配置とその指揮
ハンブルクのドリルハウス
ボローニャとチューリヒでのコンサート
イギリスのコンサート・ガーデン
コンサートのちらし、入場券、コンサート・プログラム
コンサートホールの設計と建造
チューリヒの予約会員制コンサート
ウェストミンスター・アベイにおけるヘンデル祭
ヴェネツィアの祝典コンサート
アムステルダム〈フェリックス・メリティス〉協会

19世紀前半の公開コンサートの組織形態

ヨーゼフ・ハイドン「天地創造」
ミュンヘンのレドゥーテンザールとオデオンの設計図
オーケストラおよびソロ・コンサート
ニコロ・パガニーニ
ピアノのヴィルトゥオーソ、フランツ・リスト
コンサートでの喝采
ヴィルトゥオーソへの榮譽
ヴィーンのヴィンター乗馬学校での音楽祭
教会で行われた北ドイツ音楽祭
祝典ホールでの北ドイツ音楽祭

19世紀後半の公開コンサートの組織形態

ジェニー・リンド
〈ミュージカル・ユニオン〉と〈アルマン・コンサート〉
リサイタル
ロッテルダムの祝典コンサート
見本市会場でのコンサート
クリスタル宮殿でのヘンデル記念祭
指揮者としてのフランツ・リスト
偉大な作曲家をたたえる記念演奏会
19世紀のコンサート・ガーデン
スカンディナヴィアの音楽祭
アメリカの音楽祭
カナダのコンサート
南アメリカでのソロイストのコンサート
南アフリカでのコンサート
オーストラリア音楽祭
極東でのヨーロッパ風コンサート
ヨーロッパ民族音楽コンサート
ヨーロッパにおける非ヨーロッパ民族音楽合奏団
ヨーロッパの女性オーケストラ
器楽の女性ヴィルトゥオーソ
大コンサートホール
町角でのコンサート
ピアノ製造会社のコンサートホール
〈コンサートハウス〉と労働者の家
青少年コンサートと青少年オーケストラ
世紀末のコンサートの聴衆
アルトゥル・ニキシュ
コンサートのスターたち
コンサートホール改革の傾向
〈シンフォニー・ハウス〉
電話コンサート
蓄音器コンサート

3. 「家庭音楽」と室内楽: 家庭内の音楽--
1600年から1900年まで、その社会的発展
ヴァルター・ザルメン著
(U04-028, WT00-273, WT90-078 富)

序論

「家庭音楽」という用語
「室内楽」という用語
サロン音楽
17世紀の奏楽
18世紀の奏楽
19世紀の奏楽
1900年頃の状況

図版と解説

4. 17,18世紀の舞踏
ヴァルター・ザルメン著
(WT00-386, WT90-079 富)

序論

図版と解説

絵画的トポスとしての舞踏
身分階級による舞踏の相違
集団舞踏
ソロ舞踏
慣習舞踏音楽と農村の舞踏所
農村の対舞踏
舞踏の授業と舞踏音楽
17世紀の社交舞踏
舞踏会とその他の舞踏の催し
18世紀の社交舞踏

5. 19世紀の舞踏
ヴァルター・ザルメン著
(WT00-387, WT90-123 富)

序論

図版と解説

ひとり踊りと群舞
対舞踏
民俗的出し物としての舞踏
舞踏の教授
舞踏広間
舞踏の作法
異なった社会階層の舞踏
いろいろな社交ダンス
20世紀への展望



パブロ・ミンゲト・エ・イロル作
《全般的な規則と警告 Reglas y Advertenciaas generales》の口絵
[3.「家庭音楽」と室内楽]より

プレントイスホール音楽史シリーズ
東海大学出版会 1972-1994

1. 中世社会の音楽

A.スィー著 村井範子他訳
(U01-724,U01-802,WR90-819 富)

- 第1章 音楽上の背景と哲学上の背景
- 第2章 単旋律聖歌
- 第3章 典礼に添加された聖歌
- 第4章 モノフォニーによる世俗音楽
- 第5章 ポリフォニーのはじまり
- 第6章 ノートル・ダム楽派
- 第7章 フランスのアルス・ノーヴァ
- 第8章 イタリアのアルス・ノーヴァ
- 第9章 中世音楽の終焉

2. ルネサンスの音楽

H.M.ブラウン著 藤江効子他訳
(WR02-365,WR02-366,WR90-820 富)

- 序章 ルネサンスの音楽
- 第1部 初期ルネサンス:1420-1490
 - 第1章 発端:ダンスタブルとイギリス様式
 - 第2章 デュファイとバンショワ
 - 第3章 オケヘムとビュノワ
- 第2部 盛期ルネサンス:1490-1520
 - 第4章 イタリアの音楽、1490-1520
 - 第5章 ジョスカン・デ・プレ
 - 第6章 ジョスカンの同時代者達
- 第3部 盛期ルネサンス:1520-1560
 - 第7章 ジョスカン以後の世代
 - 第8章 国民様式
 - 第9章 器楽
 - 第10章 宗教改革とトレント公会議を巡る音楽
- 第4部 後期ルネサンス:1560-1600
 - 第11章 パレストリーナ、ラッスス、ビクトリア、バード
 - 第12章 ルネサンスの終焉

3. バロックの音楽

C.V.パリスカ著 藤江効子他訳
(U01-804,U04-256,WR90-821 富)

- 第1章 バロックの理念
- 第2章 バロック様式の始まり
- 第3章 レチタティーヴォ様式
- 第4章 宗教的コンチェルトの抬頭
- 第5章 リュートおよび鍵盤楽器のための音楽
- 第6章 ドイツにおける宗教的コンチェルト
- 第7章 17世紀なかばのイタリアのカンタータ、オラトリオ、およびオペラ
- 第8章 ソナータ、コンチェルト、およびシンフォニー
- 第9章 フランスおよびイタリアにおけるオペラ
リュリからスカルラッティまで
- 第10章 イギリスにおける劇音楽
- 第11章 ヨハン・セバスチャン・バッハ

4. 古典派の音楽

R.G.ポーリィ著 藤江効子他訳

(U04-257,WR01-901,WR90-822 富)

第Ⅰ部 古典派様式の発展

- 第1章 音楽における古典主義
- 第2章 後期バロック様式およびロココ様式
- 第3章 前古典派のシンフォニー
- 第4章 古典派時代の背景
- 第5章 ハイドンとモーツァルト

第Ⅱ部 古典派時代の主要な楽曲の種類

- 第6章 古典派シンフォニー
- 第7章 古典派ソナタ
- 第8章 古典派コンチェルト
- 第9章 室内楽、ディヴェルティメント、セレナーデ
- 第10章 古典派時代のオペラ
- 第11章 古典派時代の宗教音楽
- 第12章 古典主義よりロマン主義へ

終章 古典派の音楽と今日の聴衆

5. ロマン派の音楽

R.M.ロンイアー著 村井範子他訳

(U04-258,U04-319,WR90-823 富)

- 第1章 ロマン主義と音楽
- 第2章 ロマン主義の音楽様式
- 第3章 ロマン派の音楽形式
- 第4章 ベートーヴェンとその先駆者たち
- 第5章 ベートーヴェンと同時代の作曲家たち
- 第6章 ドイツ・ロマン主義の開花
- 第7章 イタリアおよびフランスのロマン主義
- 第8章 未来の音楽
- 第9章 絶対音楽の復活
- 第10章 音楽における19世紀の国民主義
- 第11章 ロマン主義のたそがれ
- 第12章 19世紀における音楽上のロマン主義とその聴衆

6. 20世紀の音楽

E.ソーズマン著 松前紀男他訳
(WR02-095,WR90-824 富)

第1部 序論

第1章 20世紀の音楽と過去

第2部 伝統的調性の崩壊

第2章 その起り

第3章 パリにおける変革

第4章 ヴィーンにおける変革

第3部 新しい調性

第5章 ストラヴィンスキーと新古典主義

第6章 フランスにおける新古典主義と新しい調性

第7章 フランス以外の国における新古典主義と
新しい調性

第8章 民族様式

第9章 劇場用音楽作品

第4部 無調主義と十二音音楽

第10章 ヴィーン楽派

第11章 十二音音楽の伝播

第5部 アヴァン＝ギャルドとその彼方

第12章 序論：第二次世界大戦以前

第13章 科学技術の進歩と電子音楽

第14章 超合理主義とセリー主義

第15章 反合理主義と偶然性

第16章 演奏重視の新しい音楽：アメリカ合衆国

第17章 ポスト＝セリー主義：ヨーロッパにおける
演奏重視の新潮流

第18章 現代音楽の彼方

7. 西洋民族の音楽

B.ネトゥル著 佐藤馨他訳
(U01-637,U04-259,WR90-825 富)

第1章 文化を背景としてみた民俗音楽と伝統音楽

第2章 民俗音楽の構造を研究すること

第3章 ヨーロッパの民俗音楽の一般的な性格

第4章 ゲルマン民族

第5章 東ヨーロッパ

第6章 フランス・イタリアおよびイベリア半島

第7章 サハラ砂漠より南のアフリカ音楽

第8章 アメリカ・インディアン

第9章 新世界でのニグロ民俗音楽

第10章 アメリカ大陸におけるヨーロッパ系の民俗
音楽

8. 東洋民族の音楽

W.P.マルム著 松前紀男他訳
(U01-642,U04-260,WR90-826 富)

第1章 オーストラリアおよび太平洋諸島

第2章 フィリピン群島、ボルネオ、インドネシア

第3章 イスラム教のアフリカおよび中近東

第4章 アジア中部および南部

第5章 東南アジア

第6章 東アジア

第7章 アジア東北部と島国

ノートン音楽史シリーズ

音楽之友社 1969-1986

音楽の起源

クルト・ザックス著 皆川達夫他訳
(U01-720,U01-810,WR02-263)

- 第1章 音楽のいろいろな起源
- 第2章 西オリエント
- 第3章 東アジア
- 第4章 インド
- 第5章 ギリシャとローマ
- 第6章 イスラム音楽に残るギリシャの遺産
- 第7章 ヨーロッパならびに長調、短調への道筋

西洋文化と音楽 上

P.H.ラング著 酒井諄他監訳
(U04-642,WR02-265、WR02-719 富)

- 序論
- 第1章 古代ギリシャ
- 第2章 ビザンティウム
- 第3章 ローマ
- 第4章 教父時代
- 第5章 グレゴリオ芸術とその影響範囲
- 第6章 グレゴリオ聖歌の普及
- 第7章 ゴシック
- 第8章 アルス・ノヴァ
- 第9章 ルネサンス

西洋文化と音楽 中

P.H.ラング著 酒井諄他監訳
(U01-712,U01-818、WR02-720 富)

- 第10章 バロック
- 第11章 後期バロック
- 第12章 ロココーギャラント・スタイルー感情過多様式
- 第13章 古典派時代
- 第14章 18世紀の音楽をめぐる諸問題

歌曲の歴史

D.スティーヴンス編 石田徹他訳
(U04-376,WR91-656 富)

- *序文
- *中世
- *ルネサンス
- *バロックから現代
 - ベルギー
 - イギリス諸島
 - チェコスロヴァキア
 - フランス
 - ドイツとオーストリア
 - オランダ
 - ハンガリー
 - イタリア
 - ラテン・アメリカ
 - ポーランド
 - ロシア
 - スカンジナビアとフィンランド
 - スペイン
 - スイス
 - アメリカ合衆国
- *結び

西洋文化と音楽 下

P.H.ラング著 酒井諄他監訳
(U01-714,U04-231、WR02-721 富)

- 第15章 古典主義とロマン主義の合流
- 第16章 ロマン主義
- 第17章 ロマン主義からリアリズムへ
- 第18章 時流に抗して
- 第19章 19世紀の音楽と演奏活動の周辺
- 第20章 現代への道

西洋音楽史 上

D.J.グラウト著 服部幸三他訳
(U01-306,WR01-828、WR02-717 富)

序文

第1章 古代世界の末期における音楽の状態

第2章 グレゴリウス聖歌と中世の世俗歌

第3章 多声音楽の始まりと13世紀の音楽

第4章 14世紀のフランスとイタリアの音楽

第5章 中世末期の音楽--イギリスとブルゴーニュの楽派

第6章 ルネサンス時代--オケヘムからジョスカンまで

第7章 16世紀における新しい潮流

第8章 後期ルネサンスの教会音楽と器楽

第9章 バロック初期の音楽

第10章 バロックの成熟期--声楽

第11章 バロックの成熟期--器楽

第12章 18世紀前期

西洋音楽史 下

D.J.グラウト著 服部幸三他訳
(U01-298,U01-725、WR02-718 富)

第13章 古典様式の源--18世紀のソナータ、交響曲、オペラ

第14章 18世紀後期

第15章 ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン

第16章 ロマン主義--声楽

第17章 ロマン主義--器楽

第18章 ロマン主義--オペラと音楽劇

第19章 一時代の終末

第20章 20世紀

西洋音楽史

音楽之友社 1967-2001

中世・ルネサンス 皆川達夫著 (U04-288,WR90-604 富)

- 第1章 キリスト教聖歌の成立、東方教会聖歌
- 第2章 グレゴリオ聖歌
- 第3章 グレゴリオ聖歌の周辺と典礼劇
- 第4章 中世の音楽観
- 第5章 中世世俗歌曲
- 第6章 初期多声音楽
- 第7章 ノートル・ダム楽派
- 第8章 14世紀フランス音楽
- 第9章 14世紀。15世紀前半のイタリア、イギリス音楽
- 第10章 ブルゴーニュ楽派
- 第11章 フランドル楽派(上)
- 第12章 フランドル楽派(下)
- 第13章 フランス・ルネサンス音楽
- 第14章 イタリア・ルネサンス音楽(上)
- 第15章 イタリア・ルネサンス音楽(下)
- 第16章 スペイン・ルネサンス音楽
- 第17章 ドイツ・ルネサンス音楽
- 第18章 イギリス・ルネサンス音楽
- むすび ルネサンス音楽の展望

バロック 服部幸三著 (WR03-625,WR92-325 富)

- 序章 様式と様式概念
- 第1章 オペラ
- 第2章 鍵盤音楽
- 第3章 室内楽と管弦楽
- 第4章 宗教音楽
- 第5章 社会と音楽

印象派以後 柴田南雄著 (U01-824,U01-880,WR91-780 富)

- 序章
- 第1章 概説
- 序節 時代区分と種々なイイズムについて
- 第1節 19世紀末から第一次大戦の終りまでの音楽
- 第2節 両大戦間の音楽
- 第3節 第二次大戦後の音楽
- 第2章 作曲家と作品
- 第1節 ラテン系諸国
- 第2節 ドイツ・オーストリア
- 第3節 スイス・ベルギー・オランダ・北欧諸国・イギリス
- 第4節 東欧・バルカン・イスラエル
- 第5節 南北アメリカ大陸
- 第6節 ソヴィエト・ロシア(付・亡命ロシア人)
- 第7節 アジア

OPACの探し方

◆キーワード欄に「音楽史」と入力してください。

◆分類から探す場合は、

1) >>メニューで >>分類検索 を選ぶ

2)

楽譜・器楽(inst) ▼	図書(ndc0) ▼
---------------	------------

楽譜・器楽(inst)
楽譜・声楽(voice)
図書(ndc0)

➔ 図書(ndc0)を選択

3) ◎ ndc0 762* 762 音楽史. 各国の音楽. 音楽家 の検索ボタンを押して、階層 1/4 ▷ をクリック

4) 2つめの ◎ndc0 762 762音楽史. 各国の音楽 の検索ボタンを押して、画面下方の 検索 をクリック

5) 検索条件の変更(絞込み) をクリックし、資料形態: ▼ で 和書 を選び、再検索

◆請求記号から探す場合は、詳細検索画面の請求記号欄に大文字で入力してください。

U01-642

* 予約ボタンで資料の申し込み、予約ができます。

* メール、FAXでのお申し込みは、請求記号でお願いします。